



楽しく学べる防災 震災ガーディアンズ

名古屋大学の学生を中心とするボランティアグループ「震災ガーディアンズ」は、高齢者や子供など災害時要援護者に向けた防災の啓発活動を続けています。学生10人でグループがスタートしたのは平成15年のことです。防災の機運が高まっていた時期でした。災害に対する危機感の中で、自分たちに何ができるか考えた結果始めたのが、防災に関する啓発活動だったのです。

まず高齢者向け防災セミナーに講師として参加。小学生対象の活動ではカルタやクイズなど、ゲーム感覚で学べる防災グッズを使いました。グッズを使った防災シミュレーションゲームの評判は上々だそうです。「これまで被害を強調する防災ばかりだった。僕たちは楽しく学べる防災をめざしています」と話すのは、震災ガーディアンズ代表の木村祐樹さん。最近は防災グッズの貸し出しも始めたそうです。

また創立当時のメンバーで前代表の西村健さんは「阪神・淡路大震災のときは地域コミュニティの力が多くの命を救いました。僕たちも地域の防災ボランティアに加わるなどして、地域とのつながりをもっと強化していきたい」と今後の方針について話しています。なおガーディアンズは防災セミナーやイベントに関する問い合わせを受け付けるとともに、いっしょに活動する仲間も募集しています。現在登録メンバーは15人だそうです。



防災ゲームのグッズを手にする西村さん(左)と木村さん。

問い合わせ E-mail:shinsai_g@yahoo.co.jp
ホームページ <http://www.shinsai.jpn.org/shinsai/>



日本の歴史の転換期は、常に巨大な自然災害と重なっています。人々が元禄パブルに浮かれていた1703年、江戸を元禄の関東地震が見舞い、1707年には歴史上最大の地震といわれる「宝永地震」が起きました。社会の混乱と経済の破綻の

中で「生類憐れみの令」が廃止され、江戸の建て直しのため吉宗による「享保の改革」が始まりました。
また、ペリー来航の翌年、1854年には「安政東海地震」と「安政南海地震」が32時間の間隔で起きています。外圧と自然災害によ

中部は防災でも 日本の トップランナーへ

名古屋大学大学院教授
福和伸夫さん

ふくわのぶお／専門分野は建築耐震工学、地震工学、地域防災。地震防災関連の研究で、2003年建築学会賞、2007年文部科学大臣表彰科学技術賞をそれぞれ受賞。

る混乱の中、日本は開国、明治維新を迎えます。さらに、1923年に「関東大震災」。これにより国家予算の3倍の経済被害を被り、続発する地震の中、1927年には金融恐慌が起き、日本は戦争へと突き進みます。そして、戦中に、鳥取地震、東南海地震、三河地震を迎えます。

近代以降、災害は人災の側面も持つようになり、関東大震災のときは神田川を埋め立てたあとの軟弱な地盤の上で大きな被害を出し、甚大な被害の原因になりました。今、東京駅周辺の主要な施設やビル群は埋め立て地の上に建っています。

江戸末期に3000万人だった日本の人口は現在1億3000万人弱、急激な人口増に対応するため、軟弱な地盤に都市を広げました。少子化の進む日本は、これから100年かけ人口が4000万〜5000万人になるといわれています。ゆつくり100年前の人口に戻っていく訳です。これに伴って人も施設も建物も危険な地域から撤収し、自然条件と折り合いをつけながら持続可能な地域づくりを進めるべきです。

住民もいつの間にか、国や自治体に頼るようになっていきます。どんどん「生きる力」ランナーになるべきです。